

教育長 様

校番 052 大門 高等学校長  
( 全日制 課程)

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る  
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校  
令和5年度 実施報告書**

**1 学校の教育目標等**

## (1) 教育目標

大道無門「学びの道は千差万別、その志さえあればよい。夢への道に門はない、一步前へ踏み出せばよい」豊かな人生を切りひらくための学びに向かう力と高い志を持って、社会の持続的な発展に貢献できる人材を育成する。

## (2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

- ・ 育てたい生徒像
  - 【熱意】を持って主体的に行動し、自己実現を図ろうとする生徒（主体性）
  - 【創意】を持って探究を深め、新たな価値の創造を図ろうとする生徒（探究力）
  - 【誠意】を持って他者と協働し、社会に貢献しようとする生徒（協働性）
- ・ 学校として育成を目指す資質・能力は、主体性、探究力、協働性

## (3) 学科等の特色

上級学校へ進学し、社会に貢献する研究をするために、高等学校においては各教科・科目の知識及び技能を習得し、自分の興味・関心に基づき社会的課題をどのように解決すべきか総合的な探究の時間、及び理数探究において探究活動をしている。

**2 研究の概要**

## (1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

- ・ 総合的な探究の時間を核として、教科横断的に社会的課題を解決しようと探究を深めさせる。
- ・ 理数コースの探究活動を、普通科普通の探究活動に普及させる。

## (2) 1年後の目指す学校の姿

探究力をベースとした主体性、協働性を身に付け、高い志をもって社会に貢献できる人材を育成している。

## (3) 令和5年度の目標

## ア アウトプット（活動指標）

- ・ 総合的な探究の時間と各教科・科目との関連を示すカリキュラム・マップにより、効果的な探究学習が実施されている。
- ・ 総合的な探究の時間の評価ルーブリックを作成し、教員による評価及び生徒自身による自己評価に活用し、生徒の学習状況を適切に評価することができている。

## イ アウトカム（成果目標）

- ・ 見通しをもって学習し、振り返りの自己評価での肯定的評価の生徒の割合が80%以上になっている。
- ・ 外部のセミナー、コンテスト、コンクール等への参加（応募）した生徒の延べ人数が130人以上になっている。

#### (4) 令和5年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

##### ア カリキュラムの核とする教科・科目等名

総合的な探究の時間

##### イ カリキュラム開発の概要

- 学校の教育目標や育成を目指す資質・能力の育成に向けて、総合的な探究の時間を核として、生徒が各教科・科目等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用できるようにするためのカリキュラムの開発を行った。

具体的には、福山市市民局東部支所と連携し、グループテーマに沿って外部探究活動を行うことを通して、生徒に課題（探究ゴール）を明確にさせ、地域の伝統文化の継承や ZOOM で海外の方との意見交流、大学の医療職への訪問インタビューを通して、専門的な見地からの示唆を受け、視野を広げることによって探究を深めさせた。

- カリキュラム開発に係って、核とするカリキュラムを充実させるに当たって、11月に公開授業研究会を国語科、公民科、数学科、理科、外国語科及び総合的な探究の時間で実施した。核とするカリキュラムと結び付きの強い外国語科の研究授業において、情報を整理し論理の構成や展開を工夫することを目標とし、タブレットを使用して、プレゼンの評価を行った。

##### ウ 校内体制

- カリキュラム開発を全教員が参画して行うために、各教科会議を活性化させることが重要であると考え、各教科会議において各教科で取り組む内容について協議し、その内容を教科主任会で報告させ、それを踏まえてカリキュラム開発を進めた。
- 探究活動の深化にあたって A I を活用する場面が増えることを想定し、「生成 A I の取扱いの留意点」の全体研修を実施し、生徒への適切な指導をすることを全体で共有した。

#### (5) 学習評価

- 10月下旬に、学びみらい PASS を活用して生徒の資質・能力の育成状況を測った。12月下旬にマスタールーブリックを用いて生徒に自己評価をさせ、12月の三者懇談時に学びみらい PASS の評価結果を生徒に返却し、生徒に自己を客観的に捉えさせ、教科の枠では測りきれない資質・能力を見いださせた。
- 教員はマスタールーブリックの評価の妥当性を検討し、今後の指導の改善に生かしていく。

#### (6) カリキュラム評価

- 学校経営計画の中間評価、および年度末評価の時期に、各分掌・各教科会議においてカリキュラムを評価し、カリキュラム改善に生かしていく。

### 3 令和5年度の成果及び課題

#### (1) 成果

- 2年生では、グループで設定した課題の探究において校外活動を実施し、8グループが行政機関や地元企業に訪問し、9グループが企業等にメールで質問し専門家から示唆を得て視野を広げ探究を深めることができた。専門家に質問をするためには、自分たちの課題とつながりのある訪問先を選定し、研究内容や業務内容を理解し質問事項を練り直すことが有効であったと考える。また、訪問後に継続的にボランティア活動を行う生徒もおり、課題解決を実践につなげていることがうかがえる。
- 各教科のパフォーマンス課題及びその評価ルーブリックを教科主任会議で共有することができた。
- 学びみらい PASS の結果のうち、情報分析力の評価3以上である生徒の割合が2年生では 65 %、マスタールーブリックによる情報活用能力もレベル3以上が 70 % となり、客観的評価と自己評価が近づいており、俯瞰能力が向上したと考える。総合的な探究の時間における情報検索や、定期考査で複数の資料を用いた考察問題を取り入れる等を実施していることが情報分析力の向上につながったと考える。  
また、行動持続力の評価3以上である生徒の割合が2年生では 72 %、1年生では 66 % であり、探究活動を通して興味・関心が深まり課題解決に粘り強く取り組む生徒が増えていると考える。
- 見通しをもって学習し、振り返りの自己評価での肯定的評価の生徒の割合は 76.5 % になっている。
- 外部のセミナー、コンテスト、コンクール等への参加（応募）した生徒の延べ人数が 272 人になっている。

#### (2) 課題

- 総合的な探究の時間において、課題に対する仮説が浅いレベルにとどまっている。

- ・ 探究過程の評価にばらつきが見られる。生徒が立てた課題テーマに対し、ファシリテーターである教員だけでなく、全職員にアイデアを募り、行政機関等からのアドバイスをもとに、生徒の興味・関心とすり合わせを早期から行う。

#### 4 令和6年度の研究目標及び取組内容

##### (1) 令和6年度の研究目標

- ・ デジタルを活用した文理横断的な探究的な学びを強化するカリキュラムの開発計画を立てる。

##### ア アウトプット（活動指標）

- ・ デジタルを活用した文理横断的な探究的な学びを強化するカリキュラムの開発計画を立てる。特に、プログラミング学習やプログラミングによる実装を計画する。

##### イ アウトカム（成果目標）

- ・ デジタルを活用した文理横断的な探究的な学びを強化するカリキュラムの開発計画に則り、具体的な整備計画が立案されている。

##### (2) 令和6年度のカリキュラム改善の内容及び校内体制

- ・ デジタル人材育成カリキュラム開発委員会を設置し、具体的な計画を立案する。

##### ア カリキュラム改善の概要

- ・ 情報演習及び総合的な探究の時間のカリキュラムを深化させる方向で改善を検討する。

##### イ 校内体制

- ・ カリキュラム開発を全教員が参画して行うために、各教科会議を活性化させる。
- ・ パフォーマンス課題及びその評価ルーブリックを教科主任会議で報告し、共有化を図る。